

「ちょっと話し合おうよ」

と言って、話し合えることが最も大事なことだと思います。

### (13) 失敗や限界、心配

#### Q【失敗】

話し合いやクラス会議をやると子どもが変わる、子どもたちにとって必要なものである、というのとはとてもよくわかっています。しかし、デメリットや失敗談（苦労話）などがあれば、それも取り入れる参考になると思っています。教えていただけると嬉しいです。

クラス会議がうまく機能しない例として、

- ① 議題が集まらない
  - ② 子どもが意見を言わない
  - ③ 決めたルールが守られない
- などなど挙げればきりがありません。ここまで答えた質問は、多かれ少なかれ失敗や不具合がその背景にあるかと思えます。

しかし、クラス会議は試行錯誤の取り組みですから、失敗や不具合こそクラス会議を進化させるチ

ヤンスです。

議題が集まらなかったら、アンケートにしてみる。

意見を言わないなら、小グループ編成にする。

ルールを守らなかつたら、守れるルールを設定する。

うまくいかないからこそ、不具合があるからこそ、それを克服するためにクラス会議が成り立つだろうと思います。クラス会議を導入するかどうかが大事なのではなく、クラス会議でどういうクラスをつくるかが大事なのだろうと思います。

### Q 【限界】

クラス会議に関する情報を知れば知るほど、クラス会議は万能だと思っています。一方で、「そんなバカな」と思う部分もあります。クラス会議に限界を感じたことはありますか。

これは一人一人の実践者の実感の問題だろうと思います。また、何をもって限界とするかによっても違うかもしれません。クラス会議もクラスを育てる一方法です。完璧な方法論などないと思いますので、おそらく課題は多くあるうかと思えます。

クラス会議をやったが意見が出ない、子どもたちが話を聞かない、決めたことを守らない、そもそも子どもたちがクラス会議をやりたがらない…などなど挙げればきりがありません。クラス会議は、子どもたちの主体性に依存している活動です。教師の力だけでうまくやれるというものではありません。

ん。

しかし、結論から言うと、「なかった」です。

というところ、クラス会議について盲目になっているようにとらえられるかもしれませんが、そうではありません。壁があつたら、それを克服するように工夫してきたからです。子どもたちが意見を言わなかつたら、前もって議題を知らせ、意見を書かせておく、話を聞かなかつたら、繰り返し繰り返し聞き方の習慣形成を図る、決めたことを守らないなら、守るまで話し合い、チャレンジを続ける、クラス会議をやりながらなかつたら、形にこだわらず、教師主導で問題解決の経験を積むなど、

うまくいかなかつたら、うまくいくために工夫をする

これを繰り返してきたからです。うまくいかないときは、実践が進化するチャンスなのです。

クラス会議は、同じ実践者でも、子どもたちが違えば、その成長の道筋は違ったものになります。

したがって、ゴールの姿も違います。それに、クラス会議は、子どもたちが話し合いながらクラスのあり方を決めていく実践ですから、「完成形」が何かもよくわからないのが本当のところなんです。理想の社会と言いなから、その理想の社会を誰も見ることがないように、理想のクラスなどは、教師の成長によって、いくらでも変わるものだと思います。

クラス会議における子どもたちの成長は、決められた器に水を注ぐようなものではありません。水を注ぎながら、その器すら大きくしていくようなものです。クラス会議は万能薬ではありません。し

かし、その効果の限界が計り知れないのも事実だと思っています。

Q 【心配なこと】

クラス会議に優れた効果が期待できることはわかりました。でも、自分たちで課題を見つけ、解決する活動を繰り返した子どもたちが、次の学年に上がったとき、つまりそういうことをしない担任にもたれたときに「不適応を起こさないか？」と心配になります。どう思いますか。

すぐくまとまりのあつたクラスが、担任が替わった途端に荒れる現象は小学校で特によく見られるようです。「進級したときに不適応を起こさないか」という問題は、クラス会議の問題ではなく、全教師が本気で考えなくてはならないことだと思います。

次の年のことは次の担任が責任をもちたい、という考え方もあるでしょう。一面は真理でしょうが、それだけではダメだと思えます。「進級しても荒れないクラスにする」ことを想定して学級をつくるが大前提だと思えます。自治的活動は、まさにそうした集団をつくるために必要な教育活動だと考えています。それ以外でどうやって育てるのか、答えが見つかるでしょうか。

次のエピソードを寄せてくださった先生がいます。この質問の答えになっているように思います。紹介させていただきます。

昨年度受け持っていた学級で三学期からクラス会議を始めました。「こういうものだよ」という意

味を私なりに話し、話し合いの形（輪）をつくったり、最初だけ指示して、あとは手放しました。でも、その後、自分たちで議題用紙をつくったり、議題を決めて話し合いを実行したりし始めました。意味づけをしつかりしておけば、あとは子どもたちが動かせるかもしれないと思いました。その子たちは五年生になりましたが、新しいクラスやメンバーでクラス会議を行っている聞いています。とても楽しそうに報告してくれるので、自分たちで何かをつくっている実感があるのだろうと思います。

かえって私が出すぎないほうがよかったですと思います。

自分たちの生活は自分たちでつくる、という気概が、子どもの姿から伝わってきます。このお話をくださった先生がしつかりと学級をつくっていたからでしょうし、また、次の担任の先生もその力をしつかりと伸ばしてくれたからと考えられます。こうしたことを標準装備した子ども集団は、多少の荒れにはびくともしない、そう感じるのは私だけでしょいか。

#### (14) 学級活動で実施する

##### Q 【学級活動との兼ね合い】

クラス会議は、学級活動の話し合い活動と似ていると感じていますが、一方で、クラス会議は